

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和6年6月定例会	
議案番号 議案名	議案第2号 令和6年度松戸市一般会計補正予算（第1回）
議員名・会派名等	嶋原 舞
賛否態度	反対
賛否など態度決定に至った理由や討論	<p>補正額9億1316万円のうち、新型コロナワクチンの定期接種費用の一部として、3億5千866万4千円を、市が一般財源から捻出することに反対します。</p> <p>この議案に反対することで、他の予算として計上されている小金市民センター図書館分館の空調機故障の修繕、文化スポーツ推進審議会の設置、生活保護の方への志向的な金銭管理支援等の実施、馬橋消防署の改修工事の予算に対しても自動的に反対となってしまいますが、</p> <p>新型コロナワクチンへ市の助成が行われることで、結果的に接種数が増え、健康被害が増える可能性が高くなることを考えると、賛成することができません。</p> <p>議案質疑で、秋に始まるワクチン接種の種類は「未定」とのことでしたが、mRNAワクチンの可能性がきわめて高い状況です。</p> <p>学術誌「フォレンジック・サイエンス・インターナショナル」では、6月21日に「コロナワクチンを接種したのちに死亡した方の73.9%が、新型コロナワクチン接種が直接の原因であるか、または、新型コロナウイルスワクチンと死亡との間に因果関係がある可能性が高いことを示唆するデータが出た」という査読済みの論文が出ました。</p> <p>また、インフルエンザワクチンと新型コロナワクチンの死亡認定数を比べると、インフルエンザワクチンは、総接種回数3億19,01万6,711件、死亡認定数は1978年から令和3年末の46年間で25件ですが、新型コロナワクチンは、総接種回数4億36,19万3,341件、死亡認定数は2021年から今年3月の3年間で523件でした。</p>

死亡数で言うと、新型コロナワクチンは、インフルエンザワクチンの15倍の健康被害が出ています。

厚労省は、今回65歳以上の定期接種にする理由として、「個人の重症化予防により重症者を減らすことを目的」としておりますが、インフルエンザと同じB類疾病でも、健康被害の件数が15倍もある新型コロナワクチンのリスクについて国民に十分な周知がなされていません。

このような状況で、同じB類疾病の予防接種として、新型コロナワクチンを横並びに扱ってよろしいのでしょうか。

また、3月まで523件だった死亡認定数は、6月25日の時点で668人に増加しており、今も500名近い方が審査待ちをしています。

今回の助成で、想定される接種人数は約67000人と伺いました。

秋からの定期接種は、一人一人の判断に任せられており、努力義務や自治体からの接種勧奨はありませんし、

議案質疑でも、「ワクチンの種類に関わらず、定期接種開始前に市ホームページにてワクチンの説明や副反応などに関する情報を掲載する」や「予診のタイミングなど、接種をする前に、ワクチンの内容を十分説明するよう医療機関へ周知・徹底していく」とご答弁いただいたので、

条件をつけて議案に賛成できないか、非常に悩みました。

しかし、上記の対応を含めても、市の予算として接種人数が増えると予想される助成に賛成することは、できません。

mRNAワクチンが使用されないことが判明するまで
または、他の定期接種ワクチンと同程度の健康被害の割合まで下がるまでは、市が一般財源を使ってまで助成すべきではないと考えます。

以上の理由により、こちらの補正予算に反対します。